

カズオ・イシグロの「小さな」世界文学 『遠い山なみの光』と『わたしを離さないで』を中心に 2026. 1. 13(火) 14:55-16:25 6号館2階 6212 教室

■ 講演概要 -----



1998年のあるインタビューでカズオ・イシグロは、国際性を有する文学作品はしばしば「非常に小さな場所」に根ざしていると論じています。この一見逆説的な表現には、五歳にして故郷の長崎を離れ、やがて英語で執筆する「ホームレス作家」と自己形容するに至った彼の「日本」ならびに「世界」との特異な関わり方が凝縮されているように思えます。この講演ではイシグロが第五作『わたしたちが孤児だったころ』に関連づけて語った子ども時代の「気泡」という興味深い逸話を出発点として、『遠い山なみの光』や『わたしを離さないで』などの代表作に結実した「小さな場所」の空間構造と認識論、さらにそこから生じる詩学について考察します。

■ 講師紹介 -----

秦 邦生 Kunio SHIN 東京大学大学院准教授

専門は近現代の英文学。著書に『カズオ・イシグロ――記憶、孤独、そして「関係性」の方へ』（三修社、2025年）、編著に『ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』を読む』（共編、水声社、2025年）、『ジョージ・オーウェル『一九八四年』を読む』（水声社、2021年）、『イギリス文学と映画』（共編、三修社、2019年）、翻訳にレイモンド・ウェイリアムズ『オーウェル』（月曜社、2022年）、レベッカ・ウォルコウイット『生まれつき翻訳』（共訳、松籟社、2021年）、フレドリック・ジェイムソン『未来の考古学』（共訳、作品社、2011-12年）などがある。



対象： 本学学生・教員（事前申し込み不要）

学外者（事前申し込み要：先着受付・定員30名
右QRコードにて受け付けます。締切1/10）

